

かみやしろ

上社ターミナルビル(上社駅前広場複合ビル)建設工事

受賞機関 名古屋市交通局技術本部施設車両部営繕課
 名古屋市交通局技術本部施設車両部電気課
 名古屋市土木局河川部工務課
 名古屋市土木局名東土木事務所
 名古屋市土木局ポンプ施設管理事務所
 名古屋市建築局住宅部住宅建設課
 名古屋市建築局営繕部営繕課
 名古屋市建築局営繕部機械課
 名古屋市建築局営繕部電気課
 名古屋市住宅供給公社技術部建設第二課
 名古屋市住宅供給公社技術部施設課

はじめに

本工事は、名古屋市の地下鉄東山線上社駅前広場に8施設を合築した複合ビル建設工事とその地下鉄高架下を流れる準用河川植田川の下部に敷設にした導水管築造工事の2つに大きく分けられる。

このうち複合ビルについては、交通結節点機能、文化的・利便的機能、災害対策機能、住居機能といった多様な施策を効率的に行った街づくりのひとつといえるほか、地方公営企業として交通事業を運営する名古屋市の上社駅前広場用地を有効活用し、その経営基盤を強化する施策ともなっている。

事業の概要

①複合ビル建設工事の概要

複合ビルは、地下2階地上8階建てでバスターミナル、貸事務所、店舗、雨水調節池、自転車駐車場、レクリエーションルーム、文化小劇場、定住促進住宅の8施設を合築したものである。これらの施設のうち貸事務所は、市交通事業の附帯事業としてテナントから賃貸料収入を得るものである。また雨水調節池は、市東部丘陵地域の地形特性による集中豪雨災害を防止するため、雨水を一時貯留しておく施設で、複合ビルの最下層に計画された。

②上社調節池導水管築造工事の概要

準用河川植田川は、区画整理によって河川の形態が決められている上、一部で地下鉄が高架となっている区間があり、河道の断面を拡大する改修が不可能な状態であったが、複合ビルを建設する機会を捉え、上流部の取水口により導水管を通じてビル内雨水調節池に一時的に雨水を流入させる施設を整備したもので、貯留能力は導水管部分、ビル内調節池合計で35,500m³である。

事業の特徴

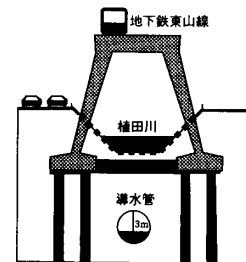
貴重な公共用地である上社駅前広場を高度利用したため、個別に建設するよりも市全体として約30億円の土地代の節約につながっているほか、地下鉄事業会計に対して同額の地上権対価相当額が支払われることにより、交通事業の経営基盤が強化された。また、発注にあたり設



上社ターミナルビル外観



上社ターミナルビル全景



地下鉄高架下における植田川及び導水管の断面イメージ図

計VE的手法や市場単価の採用等により約9%の節減ができた。

受賞賛助会員

(株)荏原製作所中部支社、(株)大林組名古屋支店、(株)鴻池組名古屋支店、東亜建設工業(株)名古屋支店、(株)東芝中部支社、三井建設(株)名古屋支店

みょうでん 妙典給水場建設事業

(スーパー堤防整備事業との共同により大幅なコスト縮減に成功した給水場建設事業)

受賞機関 千葉県水道局京葉北部建設事務所

はじめに

千葉県水道局は、昭和11年に給水を開始してから60余年になるが、安定的に給水するため数次にわたる拡張事業を重ね、水道施設の整備拡充を推進してきた。

現在、給水区域は千葉市をはじめとして10市1町2村におよび、給水人口は県人口の45%にあたる263万人であり、一日最大給水量は104万 m^3 と全国有数の大規模広域水道である。今後は、水道に対する県民の多様化するニーズに応じていくとともに安定給水を基本に良質な水と災害に強い水道造りを推進していく必要がある。

事業の背景

東京都に隣接した浦安市と市川市の一部は、近年、東京ディズニーランドやホテル、林立する高層マンションなど発展が著しく、そのため、この地区に安定した水道水を供給することと震災時の応急給水拠点のため、給水場が必要となった。

事業の概要

1. 建設方針

- (1) 建設省が進めている高規格堤防事業の一翼を担う施設整備を行う。
- (2) 敷地(約1.6ha)の有効利用を図るため、配水池は地下式とし、その上部(約1.2ha)に市川市が小学校用地として利用する。
- (3) 震災等の異常時に強い構造とするとともに自家発電設備や非常用給水設備を設けるなど給水拠点としての機能を備える。

2. 主要施設

(1) 配水池

有効容量10万 m^3 (6万 m^3 と4万 m^3 の容量、鉄筋コンクリート造、梁柱構造、有効水深13.8m)

(2) ポンプ棟

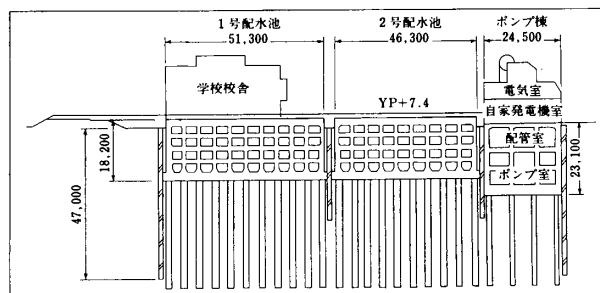
鉄筋コンクリート造り地上2階地下3階建て

延べ床面積約7,600 m^2

ポンプ室、配管室、電気室、特高受変電室、自家発電機室、次亜塩生成室などがあり、屋上には無線鉄塔



全景(左がポンプ棟、右が小学校)



断面図

及び調圧水槽を設置した。

おわりに

妙典給水場は、妙典土地区画整理地区内に立地し、配水池の上部には、小学校が載るという全国で初めての施設である。このため、建設にあたり親しみ、潤い、落ちつき等を基本テーマに地域に解け込んだ施設づくりを行った。平成11年3月末までに工事を終え、6月には稼働を予定している。

今後は、当該地区の安定給水がより一層図れるばかりでなく、震災等緊急時における給水拠点となるなど地域の発展に大きく寄与することができる。

受賞賛助会員

(株)鴻池組東京本店、新日本製鐵(株)、鉄建建設(株)千葉営業所、戸田建設(株)千葉支店、(株)東芝東関東支社、東洋建設(株)東関東支店、西松建設(株)東関東支店、(株)フジタ首都圏土木支店